

令和3年度 第2回古賀市図書館協議会会議録（書面会議）

会議名称：令和3年度第2回古賀市図書館協議会

意見提出期限：令和3年10月10日（日）

主な議題：①令和3年度図書館要覧（案）について

②図書館運営全般について

③その他

出席者：園 久恵委員、村山 美和子委員、鈴木 章委員、河村 正彦委員
久池井 良人委員、八坂 由美子委員、井上 文子委員、長澤 正之委員
以上8名

欠席者：0名

資料：①資料 令和3年度図書館要覧（案）
②資料【返送用】 令和3年度図書館要覧（案）
③意見記入用紙
④令和3年度図書館要覧（ご意見を受け修正済み）
⑤別紙【古賀市図書館協議会委員からいただいたご意見（抜粋）】

ご意見

1 令和3年度図書館要覧（案）について	
（村山委員）	○活動目標から「学校図書館市民開放用一般書の配本」を削除されたのは良かったと思います。利用につなげるためには学校司書の他にボランティアを配置し、利用する市民の方と交流しながら進めていく必要があると思うからです。 ○雑誌・新聞予算について。新聞数が減り、雑誌の発行終了も増えているのに令和3年度予算が上がっているのは、雑誌・新聞代金が値上りしたのでしょうか。 ○蔵書数が減少しているのは古い本を除籍したからですか。児童書は4,000冊減少しています。新しい本を購入して補うのですか。除籍本は、購入からの経年数で決定するのですか。 ○図書館が受けたコロナ禍の影響について、要覧の中に書き入れることも先々の参考資料として意義があると思います。 ○P3「2.施設の概要」：新型コロナウイルス感染症対策で机やいすを減数していること、AV視聴を停止していることは記載しないのですか。 ○裏表紙「書架の案内」：グラウンド側閲覧機のいす数が、P3の記載より多くなっています。 ○P8写真「知恵の冒険」：展示場所を書いた方が良いのではないのでしょうか。 ○P10「6.図書館の組織 予算・決算」「組織」：以前より文字が小さくなっています。大きくできますか。 ○P13「9.図書館の利用案内」：変更部分が目立つよう太字にしてはどうで

	しょうか。 ○P20「12. 令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画 (2) 令和3年度事業計画」：「第二十七回図書館まつり」の文字が小さすぎ見えづらい。 ○P21「13. 読書活動事業 ◆おはなし会」写真：読み聞かせをしている人がわかりにくい。 ○P22 各事業写真： ・暮らしの講座「終活入門」：画面が暗く、全体的によく見えない。 ・新入学1年生読書ノート配付とおはなし会、ミニおはなし会：説明に講師名などの記載がないのですが、どういう方が読み聞かせをしているのか気になりました。
(会 長)	○P18「12. 令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画」：「高齢者外出促進事業」を示すマークが抜けています。 ○充実した要覧に仕上がっていると思います。 ・「11. 電子図書館サービス」が加わるなど、図書館に関わる新時代到来を感じる要覧になっており、このサービスは益々充実していくものと思います。 ・昨年度要覧と比べてみた時、「雑誌・新聞タイトル一覧」が「7. 蔵書構成」の次、“8”項に修正されており、検討・吟味された構成となっています。 ・令和2年度の利用状況、貸出状況は、昨年度（令和元年度）より、当然と言えますが、いずれの項目でも「減」となっていますが、「市外登録者数」は伸びているように、市立図書館の皆さんの努力（広報等）が窺えます。
(河村委員)	○P12「雑誌・新聞タイトル一覧」：現在図書館でどのような雑誌が閲覧できるのかが簡単にわかり、とても便利です。しかし、文字が小さく高齢者には読みにくく感じます。文字のポイント数をもう少し大きくなると良い。 ○P20「えいごでおはなし会」：いつもなごやかで楽しい、好評のプログラムだと思います。子どもの参加者に向けて、講師の先生には短くてわかりやすい文章で、ゆっくりと丁寧に話していただくと良いと思います。
(久池井委員)	○図書館要覧は、年間の図書館運営状況を記録としてまとめる貴重な資料です。コロナ禍で閉館や行事の中止が続き、今年度は、要覧としてまとめるににくい面があったことと思います。しかし、要覧には、コロナ禍で図書館がどのような状況にあり、どのような取組を行ってきたのかを記録する大切な役割もあります。感染予防に徹しながら対応する図書館の様子や工夫、新たに取り入れられたこと、変更したことなど、その意図を含めて明確にさせていただけたらと思います。令和元年度に要覧の内容をリニューアルされて3年目で

	すが、表紙や内容構成が毎年ほぼ同じです。当然、基本的なことは変わりませんが、その年度らしさや特色などがもう少し出た方が良いかなと感じます。来年度は表紙も含めて変化がある事を期待します。 ○P3「2.施設の概要（3）施設の図面」： ・昨年度まで明記されていた「朗読点字室」は、現在は使用されていないのですか。 ・昨年度、中村哲さん、船原古墳のコーナーが設置されました。PRも兼ねて明記されてはどうでしょうか。 ○P7「沿革」：令和3年2月に「貸出期間はAV資料も含めてすべて15日間に変更」を追加してはいかがでしょうか。 ○P13「9.図書館の利用案内」： ・「4 貸出冊数」「5 貸出期間」変更点は字体を強調した方がいいのではないのでしょうか。 ・「11」として「電子図書館 令和3年3月9日より開始」を追加してはいかがでしょうか。 ○P17「11.電子図書館サービス」：分類ごとのタイトル数が記載されているとイメージが湧きやすいと思います。 ○P22「13.読書活動事業」：空きスペースに各種おはなし会、映画会、セカンドブック事業などの写真を掲載してはいかがでしょうか。
(八坂委員)	○要覧は年度ごとに出版されるものです。その時々、社会の流れや様子を反映させ、コロナ禍で図書館が苦勞した事なども記載しておく、今後の運営に参考になることもあるのではと思いました。 ○「目次」及びP25：「14.地域文庫紹介」に「ボランティア紹介」を追加してはどうですか。地域文庫紹介の他に、介護施設訪問ボランティア、布絵本ボランティア等の図書館関係ボランティア紹介もあると良いのではと思います。 ○P11「蔵書構成」：電子図書館の書籍数を内訳表記か別表記してはどうでしょうか。 ○P13「9.図書館の利用案内」： ・「3 貸出要件」：「福岡都市圏」について、地図を載せることはできますか？ ・「7 サービス」：「貸出中の本の予約」「図書返却ポストの設置（JR古賀駅、サンリブ古賀店）」を追加してはいかがでしょうか。 ・「10.団体貸出」：団体のみ貸出可の「パネルシアター」「エプロンシアター」「大型紙芝居」「布絵本」等についても記載してはいかがでしょうか。 ・「Webサービス」に「本の貸出延長」「予約」「検索」を追加してはいかがでしょうか。

	○P16「10. 図書館の利用状況 (12) サービス指数」：各数値に「／年間」を明記した方が良いと思います。 ○P17「電子図書館サービス」： ・「(2) 利用統計」の「タイトル数」は、「一般書」「児童書」の内訳を記載してはいかがですか。 ・「古賀市立図書館」トップページにある「古賀市電子図書館」バナーから等、電子図書館の入口を記載してはいかがですか。 ○P19「12. 令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画」： ・展示台の企画展示内容や写真なども記載されてはいかがですか。 ・令和2年度はコロナ禍のため、様々な企画が中止になったとの一文もあった方が良くないのでしょうか。 ○P21～23「13. 読書活動事業」： ・「(1) 児童向け」「(2) 一般向け」「3. 全体として（図書館まつり等）」のように、分け方を変更してはいかがですか。 ・「◆映画会」は「名画会」を「(2) 一般向け」に、「子ども映画会」を「(1) 児童向け」に分けて表記し、上映会ごとに開催日時、上映作品名、人数等を記載してはいかがですか。 ・「暮らしの講座」の紹介も入れてはいかがですか。
(井上委員)	○図書館要覧を読み、理解しにくい事もありましたが、要覧は市政の一環として作成されていることや、図書館を利用されている団体のことなどがわかりました。また、未来を担う子どもや若者に、催事等を提供されていることは良いことだと思います。しかし、若年世代は活字離れが進んでおり、私はそのことに不安を覚えます。高齢者は活字に親しんでいる人々が多い世代です。そのことを考慮した内容を要覧に入れて欲しいと思います。高齢者は人口に占める率も高いので、図書館利用者を増やすチャンスにもなると思います。
(事務局対応)	「資料④令和3年度図書館要覧（ご意見を受け修正済み）」参照
2 図書館運営全般について	
(園委員)	○読書活動事業を通して、読書の楽しさを、子どもにも大人にも伝える活動が継続されていることが素晴らしいと思います。ブックスタート、セカンドブック配付といった事業を行うことで、就学前の読書環境づくりや意識の向上を進めていることが、児童の豊かな本との出会いにつながるものだと思います。今後も取組の継続が大切であると思います。
(村山委員)	○利用者が増えるよう、図書館は日々苦心されていると思います。 書架の本の収め方についてですが、きっちりし過ぎていると出し入れが難

	しく感じます。コスモス文庫でも、書架を増やし、ゆったりと本を収めたいと思っています。図書館でも、実際の出し入れの状況を確認してみるのも大事だと思います。
(会 長)	○令和 2 年度はコロナ禍の影響により、中止や縮小された事業が多かったようです。しかし、実施分については、ある程度の参加状況がみられたと思います。「定例行事」や「見学・職場体験」も、ほぼ同じような結果となりましたが、令和 3 年度後期は参加者増を期待したいところです。
(河村委員)	○より良い図書館運営を目指して定期的に図書館協議会が開かれ、その成果が「図書館協議会議事録」として古賀市ホームページに公開されています。この「図書館協議会議事録」は、発言内容が発言者の記名入りで全文正確に記録されており、とても高い透明性を保っています。また、行政関係者だけでなく市民の誰でもがいつでも図書館行政にアクセスできる仕組みとなっています。これからも、このような公正な図書館運営が行われることを望んでいます。
(久池井委員)	○コロナ禍で休館や利用制限、行事の中止が続くと、子ども達や市民の方々が直接本に触れる機会が少なくなるとともに、図書館を身近に感じられなくなる利用離れも心配です。たとえ利用制限があり、貸出や返却が中心となることであっても、できるだけ開館していただき、読書活動の中心として、そして、地域の情報拠点としての存在を示していただきたいと思います。開館が困難なときでは、ホームページや広報紙、掲示物等で、読書の楽しさや意義、お薦め本の紹介など積極的に発信してもらいたいと思います。活字離れと言われている若者たちの間でも、最近では、書評によって刺激されて本を購入したり、インターネットで本を紹介し合ったりする取組が進められていると聞きます。本や情報、読書活動の拠点として、そして、読書活動の専門家である司書の方々がいらっしゃる図書館は、読書環境の提供とともに、担うべき役割が大いにあると思っています。また、読書活動に関する行事も、中止にするだけでなく、オンラインでの開催も含めて検討していただき、様々な可能性を探っていただきたいと思います。コロナ禍での新たな取組の進展に期待しております。
(八坂委員)	○コロナ禍で図書館の利用者、貸出冊数が減っているのは当然の事ですが、それを考慮しても尚、本離れは進んでいます。ページをめくる楽しさを思い出してもらうための働きかけが必要に感じられます。例えば、めくるだけでも癒され、楽しくなる本の紹介など、大人に向けた絵本の働きかけはどうでしょうか。布絵本ボランティアの立場からとしては、一般の方へはもちろん、乳幼児のおられるご家庭や障がいのある方への布絵本の貸出を検討していただける

	と嬉しく思います。職員の皆様には、いつも親切に対応していただき大変うれしく思っています。館内展示も工夫があり、とても良いと思います。
(井上委員)	○新型コロナウイルス感染症の影響で休館し、なかなか利用できませんが、市民全般に図書館に目を向け、利用していただくためには、年齢に応じた催事を行うことが必要だと思います。コロナ禍で、委員の活動があまりできなくて残念です。
(長澤委員)	○努力されていると思います。深く感謝いたします。
(事務局対応)	別紙【古賀市図書館協議会委員からいただいたご意見（抜粋）】参照
3 その他	
(八坂委員)	※別添提出（布の絵本ボランティア「つくしんぼ」より） 「布絵本について」 布絵本は、バリアフリー図書的一端を担うものです。 乳幼児が本に出会い、ページをめくる楽しさを覚えるために、破れる心配のない布の絵本で体験させることができます。 また、目に障がいのある子ども達には、さわる絵本としての役割もあります。もちろん、様々な障がいのある子ども達にも、そうでない子ども達にも等しく、触れて楽しむ布絵本の楽しさを知ってもらいたいと考えています。 公共図書館で、すべての人が、子ども達が、布絵本に出会えることで、「心のバリアフリー」が実現できることを願っています。 また、図書館に来ることができなくても、布絵本を借りて、家で楽しむことができるようにとも願っています。